

一、二条城行幸御会和歌集

解説

寛永三年（一六二六）九月八日、後水尾天皇の二条城行幸に際して開かれた和歌会の記録である。寛永三年（一六二六）八月、この行幸に先んじて権大納言に任ぜられた徳川義直・忠長らが「権大納言」と記されていること（徳川頼房も「権大納言」と記されているがこれは権中納言の誤り）、同じく八月、右大将に任ぜられた九条忠象が「右近衛大将藤原忠象」となっていること、元和二年から寛永五年まで左中将の地位にあった水無瀬兼俊が「左兵衛権中将藤原兼俊」と記されていること、寛永三年十月に親王宣下を受けた道晃法親王が「聖護院道晃」とのみ記されていること、寛永六年に没した八条宮知仁親王の名が見えることなどから、寛永三年九月の和歌会であることが確実である。この行幸は同年六月、大御所徳川秀忠が上洛、ついで同年八月、將軍家光が上洛したことを受けて開かれたものであり、元和六年（一六二〇）の子入内によって築かれた公武融和の頂点を象徴するものであった。和歌会の題は「呉竹」であり、今回の行幸を言祝ぐ和歌が並んでいる。福富家に伝来した由来は未詳。冒頭が劣化して欠け落ちているのが惜しまれる。